

セーフティプロモーションスクールにおける活動成果の共有 ～台東区立金竜小学校における取り組みから～

大 田 麻 世

東京都台東区立金竜小学校

Share of Successful Results in the Activity of Safety Promotion School at Taito Municipal Kinryu Elementary School

Mayo Oota

Taito Municipal Kinryu Elementary School

I はじめに

本校は、創立104周年を迎えた学校で、日本有数の観光名所、浅草寺から直線距離にて約1kmに位置し、学区には、昔ながらの住宅街、住居と商店が一体化した商業地域がある。幹線道路沿いには、高層マンションが建設され、近年、学区人口は増加している。

児童数は400名、学級数は14学級（特別支援2）の中規模校である。また、敷地内に幼稚園とこどもクラブが併設されている。保護者や地域住民も学校の教育活動にとても協力的である。

平成23年の東日本大震災を契機に、ヘルシーアンドセーフスクールをキャッチフレーズに安全教育に力を入れてきた。また、平成27年には、SPS（セーフティプロモーションスクール）として認証され、災害安全・生活安全・交通安全の3領域において、学校を中心に児童・保護者・地域・関係諸機関が連携して安全教育を行うこととした。

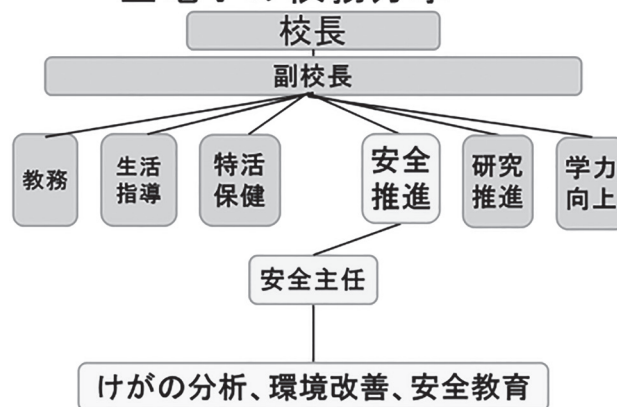
II 実践内容と取組

(1) 安全体制の整備

① 安全推進委員会の設置

平成26年度から、校内委員会の一つに安全推進委員会が発足した。安全推進委員会は、校内委員会の一つで、研究推進委員会・学力向上委員会と共に組織として位置付けられている。安全主任のもと、安全教育の充実、環境整備、学校安全に関する研修の企画・立案、実践発表等の活動を行っている。生活指導部とは別に独立した組織を設けることで、仕事内容や役割を明確にして安全教育に特化して取組を推進することができた。その結果、教職員の学校安全・安全教育に対する意識も向上することができた。また、安全教育に関する外部との連絡の窓口になることで関係諸機関との連携をスムーズに進めることができるようになった。

金竜小の校務分掌



② 金竜安全の日

平成23年度から、1学期が始まる前の4月4日を「金竜安全の日」と定め、幼稚園教職員を含む全教職員で安全に関わる研修・訓練を行っている。内容としては、危機管理マニュアルの共通理解を図った上での心肺蘇生法・AEDの救命講習、不審者対応訓練、避難所開設訓練、アレルギー研修、校内一斉安全点検を行う。救命講習については近隣の消防署の協力を得て講習を行っている。学校現場に即した実技・演習を行うことができる。

児童が登校する1学期が始まる前に安全に関する研修を行うことで、人事異動により着任した教職員も共通理解を図ることができ、児童の安全を守ることができる。



写真1 救命訓練と不審者対応訓練の様子

③ 避難訓練

年間11回避難訓練を行っている。近隣の公園まで全校児童が避難する二次避難訓練や津波を想定した避難訓練、管理職不在時の避難訓練など、様々な想定での避難訓練を計画・実施し、より実践的な訓練を行っている。また、児童には予告しない、いわゆる「抜き打ち」の避難訓練も年に数回実施している。実践的な避難訓練を通して児童の「自助」の意識が高まっているので、低学年でも避難の放送がなるとすぐに適切な行動をとることができるようになった。



写真2 避難訓練の様子

(2) 家庭・地域との連携

① 月1回実施の一斉下校

本校がある台東区の全小学校で毎月1回、「子供安全の日」として、一斉下校を行っている。

本校では全校児童を住んでいる地域ごとに班を編成し、教員全員が分担して各班を担当する。また、6年生は班長となり、安全な登下校について意識をもって取り組んでいる。

一斉下校時には保護者や地域の方々が通学路に立って、見守りをしてくれており、児童の安全意識の啓発になっている。

② 緊急時における児童引き渡し訓練

災害発生時に、保護者に安全に引き渡せるように、年度初めの4月に毎年行っている。また、今年度は浅草警察署に来てもらい交通安全についての注意喚起を行った。家庭との連携を図ることで、保護者の意識が向上し、家庭で児童と話し合うようになった。

③ 学校安全ボランティアの活用

台東区では、子供たちが安心して学校生活を送ることができるように「学校安全ボランティア」を募集し、活用している。本校には、地域協力者やPTA顧問など、12人のボランティアが登録されており、通学路の要注意箇所の安全確保や学区域での児童の見守り等の活動を行っている。

児童の登校時には、学校安全ボランティアと、保護者（輪番制）が本校近くの横断歩道に立ち、児童の安全を確保している。また、教員が正門前に立ち、見守りを行うことで児童が安心して登校できる環境を作っている。



写真3 登校の様子

④ PTAによる安全点検

平成28年度より、PTAによる校内安全点検を行っている。校内の安全点検は月に一度、教職員が行っているが、保護者が安全点検をすることにより、新たな危険箇所を発見し、改善につながっている。



写真4 PTAによる安全点検の様子

⑤ 地域別懇談会

年に一度、学校に関わりのある町会と懇談会を行っている。懇談会には、町会の役員の他、保護者も参加し、地域行事の確認を行うと共に、学校と地域の情報共有を目的として毎年実施している。このように毎年地域と学校の情報共有を行うことで、非常時にもスムーズに連携を取り、協働して安全を確保することができる。

(3) 関係機関との連携・協働

平成27年にSPS（セーフティプロモーションスクール）に認証されてから、学校が中心となり、警察や消防、行政、学校三師等が協働し、安全推進をすすめていく「チームとしての学校」の考え方を基に、関係機関との連携を図っている。

① セーフティ教室（心の東京革命推進協議会浅草警察署）

心の東京革命推進協議会（東京都青少年育成協会）と浅草警察署の協力を得て、全学年を対象にセーフティ教室を行った。低学年には、安全な登下校の仕方についてロールプレイングを交えた講義を行った。体験的な活動を取り入れることで、登下校の仕方について主体的に取り組むことができた。高学年には、近年話題になっているスマートフォン・携帯電話の安全な使い方について講義を行った。身近にある携帯電話の危険性について実際の事例から学びを深めた。また、保護者向けに学校で取り組んでいる安全教育や地域の状況を話す時間も設けられた。セーフティ教室が、安全に関する話を家庭でするきっかけとなったという声も多く上げられた。

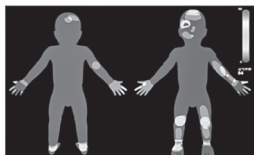


写真5 セーフティ教室の様子

② けがの集計（東京都産業技術総合研究所）

平成26年度から東京都産業技術総合研究所と連携し、外傷予防を目的とした児童のけがの集計を行っている。学校生活の中でどの時間にどのような怪我がどこで起こりやす

けがの分析



金竜小学校児童のけがの分布図

いのかを分析した。分析内容は、学校内の環境整備に活かされ、怪我の予防に努めている。また、児童集会に研究員を招き、分析結果から注意喚起を促した。実際に本校で起きたけがの事例や時間別にみたけがの件数の報告を聞くことで、児童の意識の向上につながった。

③ 交通安全教室の実施（浅草警察署交通安全課）

本校の学区を管轄している浅草警察署交通安全課の方をゲストティーチャーとして迎え、自転車安全教室や歩行訓練などの交通安全教室を毎年実施している。実際に校庭や道路での演習を取り入れた活動を行うことで日常生活にすぐに活かせる児童の主体的な学びにつながっている。

④ サマーフェスティバルの実施（日本堤消防署）

1学期の終業式後、PTA主催のサマーフェスティバ

ルを行っている。サマーフェスティバルでは、本校を管轄している日本堤消防署の協力のもと、保護者と児童、教職員によるバケツリレーや放水車による実演、AEDを使った救命訓練を行っている。保護者、児童、消防署が一同に会し防災の活動を行うことで、連携を深めると共に、防災意識が向上した。

Ⅲ 終わりに

（1）成果

- ① 東日本大震災を契機に安全教育、環境整備の観点から安全推進を進めてきた。その結果、教職員の安全に対する意識に変化が見られた。教職員の意識が向上したことにより、児童が迷子になったときの捜索や地域での事故対応など突発的な非常事態にもスムーズに対応することができるようになった。
- ② 児童の学びを通して、保護者や地域、関係諸機関の理解や意識の高まりにつなげることができた。学校が地域や関係機関への発信者としての役割を担うことができた。

（2）課題

- ① 平成24年度から校内での外傷について予防策を実施し、平成24年度から25年度で102件、25年度から26年度で252件のけがが減少した。しかしながら、平成27年度のけがの件数は、26年度に比べ、約40件増える結果となった。これまで実践してきた内容をさらに精選し、安全に対する教員児童の意識を高め、外傷発生件数を維持、減少していくことが必要である。
- ② チーム学校としての学校の役割を考え、地域や関係機関との連携・協働を図り、より充実した安全推進の取組を継続していく必要がある。